12月3日～9日は 障害者週間

～障がいへの理解を深める アートの力で～

「障害者週間」は、障がいのある人への関心や理解を深めていただくとともに、障がいのある人が、あらゆる分野の活動に参加する意欲を高めるための意識啓発を行う週間です。

今回は、障がいへの理解をより深めていただくため、芸術活動を通して、日々、さまざまなことに挑戦されている人や、それを支える人の活動などについてご紹介します。

障がいの有無に関わらず、お互いに気持ちを尊重し、支え合いながら暮らせる「共生社会」を目指しましょう。

問合先　地域福祉課障がい者支援グループ　（あいあい　☎84−3313）

挑戦する人

今年、個展を初開催した　**神野（かみの） 魁（いさむ）さん**（写真右）

ダウン症の神野さんは、4歳の頃から絵画教室に通い、現在は、書道家の伊藤潤一さんに師事し、本年10月には市内で書の個展を初めて開催するなど、積極的な芸術活動に取り組んでいます。

――芸術活動をはじめたきっかけ

母：4歳の時、ぐるぐると円を描くようなことを楽しんでいる様子を見て、絵画教室に通わせたら本人も喜び、今でも通っています。ほかにもスイミングやダンス、陸上など、魁が興味を持ったことはいろいろ挑戦させています。

――作品作りのテーマはどのように決めるのか

魁さん：好きな歌手（上地雄輔さん）の歌詞の一節を参考にしたり、自分が好きな言葉を、潤クン先生（魁さんの伊藤先生の呼び方）と相談したりして決めています。

――個展を開催したきっかけ

母：書を始めた時からいつか発表の場を持ちたいと考えていて、魁が今年20歳になった記念に開催しました。

――今後の目標・夢は

魁さん：来年、潤クン先生の個展が台湾で開かれるので、それを見に行きたいです。将来は、僕も世界中の人に作品を見てもらえるようになりたいです。

魁さんを指導する書道家 伊藤潤一さんに聞きました

――魁さんの書の魅力について

純粋に自分の感情などを表現できる「欲がない」部分です。「上手く書こう」とか「計算」ではなく、自分の内側から湧いてくることをそのまま出すことは私にも真似できない部分です。

――魁さんや読者の皆さんへのメッセージ

自分の気持ちを大切にしつつ、ずっと書を続けてもらいたいです。そして、本人の希望どおり、世界中の人に作品を見てもらえるようになってほしいです。私の経験ですが、思いもしないきっかけで、自分のことを知ってもらえることがたくさんあります。SNSなどを通じて、感想が聞けたり、思わぬ出会いがあったりするので、長く続けて、楽しんでもらうことが何より大切だと思います。

◆芸術文化活動の普及により、地域における障がい者の自立と社会参加の促進を図る動き

(1) 国の動き

平成30年6月に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行されました。

この法律は、文化芸術活動を通じて障がい者の個性と能力の発揮や社会参加を進めることを目的としています。文化芸術は、障がいの有無にかかわらず、人々に心の豊かさを生んだり、お互いの理解をもたらしたりするものです。

(2) 市の取り組み

第2次亀山市障がい者福祉計画では、相互理解と社会参加の促進に向けて、情報発信や環境整備をすることにより、障がいの有無に関わらず、文化芸術などにあらゆる人が参加していることを、めざす姿の一つに掲げています。

また、亀山市文化芸術推進基本計画では、障がい者福祉計画との連携を図り、障がいの有無等に関わらず、文化芸術に触れることができる環境づくりや活動成果を発表する機会の提供に取り組むこととしています。

支える人

アトリエ・エピ主宰　森 敏子さん(写真左)

本市で40年以上前から絵画教室「アトリエ・エピ」を開くとともに、アートイベントなどで多くの人に絵の魅力を伝えてきました。絵画教室では、障がいの有無に関わらず、その人の個性を生かした作品作りをサポートしています。

――障がいのある人の活動を支えるきっかけ

「エピ」を始めて2年ぐらい過ぎたとき、知的障がいのある方のご両親から、「習い事をさせたいけど、どこも断られる」という相談を聞き、「エピ」で受け入れさせていただいたことがきっかけです。

その後も、障がいのある方が来てくださるようになり、色使いや描き方、発想力など、子ども同士お互いに感じ合うことができると思い、教室に通ってくださる子どもたち全員でクラスを一緒にして続けています。

――今後の目標は

障がいのある人たちの作品には、魂を感じます。純粋で斬新な発想力があり、私は「ピュアアーティスト」と呼んでいます。コロナ禍前は、毎年「ピュアアーティスト展」という展覧会を開いていました。今後は、再び「ピュアアーティスト展」を開催して、たくさんの人に作品を知ってもらいたいです。

森さんの教室に長年通う中村美紀さんとそのご家族に聞きました

――美紀さんにとって絵を描くことは

母：「エピ」に通って絵を描くことが生活の一部になっています。これまで本人の気分が沈んでいたときもありましたが、できるだけ生活のリズムを崩さないようにと「エピ」に通い続けていたら、現在は少し落ち着いてきました。

美紀さん：
絵を描くのが楽しい。大好き！これからも楽しく絵を描き続けたい！

令和4年度 三重県障がい者芸術文化祭

～ ひとりひとりが主人公 想いを届ける芸術祭 ～

障がいのある人々が、音楽、演劇、絵画などの芸術文化に親しむとともに、その能力を発揮できる場として開催されます。

入場無料
事前予約者優先
(当日入場可)

と　き　12月23日(金)、24日(土)　午前10時～午後4時　※24日(土)は午後1時まで
ところ　四日市市文化会館 第1・3・4展示室、第2ホール（四日市市安島2丁目5−3）
内　容
- 作品展[絵画、写真、書道、陶芸、手芸、工芸(版画・彫刻)、貼り絵・CG、俳句]
- ステージ発表[歌唱、楽器演奏、演劇、踊り・ダンス]
- 表彰式[24日(土)午後1時から]

問合先　三重県障がい者芸術文化祭実行委員会事務局(公益社団法人三重県障害者団体連合会)
☎059−232−6803　FAX 059−231−7182　URL https://mie-asc.jp